

令和元年度 第5回 運営推進会議

(報告：赤井田)

1月24日(金)に開催された会議の内容をご報告します。

今回は「グループホームの在宅としての役割」をテーマにコメンテーターとして地域包括支援センター所長、介護保険係の方、行政区長様、グループホームむくげ管理者、看護小規模多機能型居宅介護タンポポ所長をお迎えしご家族様、初の試みで花水木スタッフ全員参加の運営推進会議を開催いたしました。

◆毛利代表より

- これまでの会議には管理者・ケアマネジャーの参加のみであったが今回スタッフ全員参加している。スタッフからご家族の思い、行政の取り組みなどいろいろな方向から伝わるがあるので、この機会に今課題となっている「最期をどう過ごすか」をご家族、スタッフ皆で考えるテーマとしました。
- グループホームは施設の様でもあり家庭の様でもある。スタッフは、表は家族として、後ろは常にプロ意識を持ち誰が主役かを大切にしている。職員は介護の仕事に喜びを感じ「自分のケア」に自信を持ち携わっている。ご家族との関わりの中で「親子だったら…」どう感じるか、職員としてどうなのか、ご本人、ご家族の思いをつなぐ役割・関係性をどのようにしていったらよいか皆さんのご意見を聞かせてください。

◆行政より

- 居宅ケアマネの監査の際「なんでだろう」の探りが大切だと感じた。観察がケアに結び付く。花水木に来て毎回温かい雰囲気が良いなと思っている。共通認識の下、意識してケアしていることが繋がると感じた。(介護保険係：斎氏)
- 前回の運営推進会議で頂いた介護の日しんぶんのスタッフの方々のコメントのコピーを介護保険係全体で回覧させて頂き大変参考になった。今回理念=思いがご家族も理解され納得しており、一丸となっていると感じた。
- 新型コロナウイルスの問題がある。今後の情報に注目して頂きたい。(介護保険係：目黒氏)
- 行政の方に認知症の相談が多くある。花水木のケアを見ているとケアの工夫や空間づくりが参考になる。ケアマネジャーはその人を見ることが大切と感じる。
- 皆さんで確認し悩むことも大切。色々なサービスの仕組みを理解してほしい。(角田市地域包括支援センター所長：水戸氏)

◆地域より

- (新中島北区区長：目黒氏)
- 2/20にひだまりサロンを予定している。今回は節分の会。3/8中島北区活動計画の総会を開催予定。
- 花水木は自然と行っているケアであることが見てすぐ分かる。介護が仕事になっているのではなく、接することが大切であることを感じている。

◆花水木より

- 花水木の取り組み・サービスの質の向上に向けて、スタッフと利用者様の関わりについて(管理者：赤井田)
- 「口を開けない認知症の方へのアプローチについて」摂取量の低下や拒否、施設で食べさせてほしい等、食事の変更や中断、家族支援について研修を受けてきた。『いつかは食べなくなる』ことは自然な姿であり、【最後まであきらめなくてもいいが、無理にねじ込まなくていいよ】内側のスイッチが拒絶しているのに善意で食べさせてしまうことがある。食べてほしい方の不安を取り除き、自尊心をあげるようなケア、内発的に食べてもらえるよう導いていくことが大切。認知症を理解し、介護員が軸となり、運命の時がやってくるまでその人らしさが無くなっていくたびにベストを尽くす。内側の食べたいスイッチを上げる為にネバーギブアップ!!そして工夫しても半年後には食べられなくなる可能性がある。そこを死生感を持った家族と乗り越えていく。「次の世代に教えてあげた!!」これが死の準備であり、語りの中から受け継ぐ。一緒に食事を作り食べ、喜び合うゆとりの時を過ごす。決めつけず、いろいろな方向から食べない原因を確かめていくこと。ここが近年求められる認知症支援の着眼点である。(スタッフ：目黒)
- 認知症支援とは対象者の気持ちを推測し続けることが大切。対象者、家族、支援者全員が苦しい。しかし、学び考え苦しみ続けることが認知症ケア。苦しむことが順調であり、本人を軸としてきちんとケアしている証拠。良い亡くなり方をするための支援。多方向からベストをつくす。家族も後悔しないように。がん患者等と異なり認知症高齢者の看取りの判断時期が難しい。早めに看取り期と判断しないと突然亡くなることもある。食事が低下してきた等些細なきっかけをご家族と共有し、お別れまでの時間後悔のないように。
- 自尊心(自尊心)を高めるために、出勤したら他の職員より先に利用者へ挨拶する。特に重度の方へ。代表は花水木に来所時、私達よりもご利用者さんに最初に挨拶し、中に入る前から『あなたに会いに来た』と全身を使って表現する姿から私達も日々多くのことを学んでいる。ご家族の皆さんもスタッフや他ご利用者さんに気を遣わず、真っ先にお母さんに話しかけてあげてください。ご利用者さんにとってそれが何より必要とされているという実感できると思います。(ケアマネ：引地)

◆タンポポより

- (所長：我妻氏)
- 看護小規模多機能型居宅介護タンポポの役割説明。ご自宅での生活を支援する4つの機能(訪問看護・訪問介護・デイ・ショート)がある。慣れ親しんだ場所で自然と働く内的な物(楽しい・嬉しい)を大切に認知症の病気を理解しサービスを提供している。

◆グループホームむくげより

- (管理者：大橋氏)
- むくげでも2か月に1回運営推進会議を開催している。毎回流れが決まっている。今回初めて他のグループホームの会議を見て「利用者目線」でそれぞれ職員が自分の言葉で思いを伝えていることに驚いた。ケアについて感じたこともあり自尊心を大切にしていきたい。

◆ご家族より

- 家では上手く関われない。花水木に入居して細かい所まで寄り添ってもらい出来るが増えた。一緒に花水木のレク活動に参加する姿を見ることで一緒に笑っている姿に感動し感謝している。
- 時々熱を出すこと、日中寝ていることが多くなり体力が落ちてきていると感じている。今後は不安に思うことがあるがスタッフの皆さんと相談しながら進めていきたい。親子の会話ではアイトーク中心だがその表現を大切にしていきたい。
- 認知症の進行に伴いグループホームで過ごすことが難しくなっていると感じる。後悔しないように今できることを考え、自宅での生活を考えている。
- 普段は考えることが難しい今日のテーマでしたが、目を背けず考えなければならぬ大切なこと。

◆スタッフより

- 参加し皆さんの思いを受け止めて自分なりのケアに自信をもってさらに努力していきたい。
- ご家族の思いを直接聞き今後のケアに役立てたい。
- 推進会議の参加していただいた皆様のお話を聞き、今回のような機会を大切にしたい。ご本人、ご家族、スタッフの密な連携が大切だと再認識した。



(有)カナガミケアリンク No.185 令和2年2月10日発行

雪景色をあまり見ることができないこの冬、暦の上で立春を迎えました。花水木の玄関に一輪咲いた蛸梅が、差し込む陽ざしが日を追うごとに一輪…また一輪と花を咲かせています。「今日も咲いたかな?」「お〜♪咲いたな〜!」ともう目の前まで春が来ています。小さな変化をみなさんと見つけ、それぞれの感じ方を聞かせていただき、笑い合いながら過ごせる一日一日を大切に感じています。当たり前過ぎるのではなく、それぞれの笑顔と「ありがとう」の気持ちが伝わる空間に幸せを感じる花水木を目指します。

最近報道されている様々なウイルスが流行しております。花水木でも感染予防に努めておりますので、ご家族の皆様にも面会時等、玄関でコートを脱いでいただき、うがい、手洗い、手指消毒、マスク着用等ご協力お願いいたします。



節分

節分に向けて終綱や、鬼の壁飾りの制作し準備…いざ豆まき本番!!

今年の目標は..

「元気でいたい」「楽しく暮らしたい」など、みなさんの思いや願いは筆にのせ、スラスラと...



何事も集中しいつも真剣に挑戦するEさん。「楽しく仲良くね」と優しいお話も♪

春の七草



せり、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ほとけのぞ、すずな、すずしろ春の七草♪若葉をお粥にして無病息災を願いました♪



「七草たたく、何たたく 唐土の鳥が日本の国を 渡らぬ先に七草たたく…」と歌いながら刻みました。「こうやって歌ってお粥に入れて昔から食べてきたよ～」

だんごさし



手作りの縁起物お飾りは紙風船、ダルマ、金目鯛など。揺れる飾りに自然と手が伸び、笑顔も一緒に！



「可愛いごだね～」 「20日の風に当てないように降ろさいよ～」と昔からの風習を教えてくださいました。



日常ひとコマ♪

顔なじみの皆さんで会話しながら昼食のひとときはのんびりと♪



大きな林檎を上手に剥いてる姿に周りの人はじーっとみつめ。



子供の頃の糸引き駄菓子は懐かしさに一瞬幼心に戻りました。



お部屋に飾る椿のリース完成。色とりどりの椿をお互い見せ合い「本物？」とにっこり。

